

第100回

太田商工会議所管内景況調査報告書

2021年 10月 ~ 12月期 実績

2022年 1月 ~ 3月期 見通し



太田商工会議所

太田商工会議所 景況調査 目次

景況調査発行100号記念特集・・・・・・・・・・	1
太田商工会議所専務理事100号発行にあたって 景況調査の経緯、25年間の推移など	
調査要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
調査目的や対象企業（業種）、回答率など	
設問に対する業種別回答・・・・・・・・・・	5
9つの質問に対する業種別による回答状況	
業種別DI値について・・・・・・・・・・	8
6つの業種ごとのDI値及び回答企業からのコメント	
全体DI値について・・・・・・・・・・	12
全ての業種を併せたDI値と1年間の推移	
比較資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
同様の景況調査を行っている機関とのデータ比較 (中小企業基盤整備機構、日本商工会議所LOBO調査、日銀短観)	

第100回発行にあたって



太田商工会議所
専務理事 橋本文男

平成9年3月調査を皮切りに今回で第100回を皆様のご協力のもと発行できることになりました。会員企業並びに地域社会の発展に貢献することを目標に活動している当所と致しましては、経営者の羅針盤的役割を果たすべく企画立案されてから25年の歳月が流れました。

その間において平成19年のリーマンショックと今回のコロナウィルス感染拡大が大きな景気の後退局面であったことが、添付のグラフで確認できます。しかしながらリーマンショック後、地域の牽引企業であるSUBARUの米国市場における販売好調のおかげで急激に景況感が回復していることが判ります。

平成31年（2019年）太田市の製造品出荷額が約3兆円、全国11位（市町村別）になるという全国屈指の工業都市への躍進を果たすことができました。コロナ禍による景気の後退も新生活様式や脱炭素への社会的要請に応えながら力強く回復することを期待しております。

今後とも当報告書が皆様にお役に立つよう改善を図りながら進めてまいりますので、調査へのご協力とご意見ご要望を切にお願いして第100回発行にあたっての御礼とさせていただきます。

景況調査の経緯について

太田商工会議所の景況調査は、管内経済動向を的確に把握し経営の指針としていただく事を目的に、平成9年（1997年）3月に第1回の調査を開始しました。

調査対象として、商業と工業の2つの部門に分け、商業は、「小売業・卸売業・サービス業・飲食業」の4業種各5社。工業は、「運輸機器、機械、電気機械、繊維、建設関連業、輸送業」の6業種各5社の合計150社の会員企業様にご協力頂き調査を実施しました。第2回目からは、関東学園大学経済学部様にご協力頂き、調査結果の分析を行って参りました。その後、第29回（平成16年1～3月調査）からは、当所職員が調査・分析を行っております。



第82回（平成29年4～6月調査）からは、調査企業数を270社に増やすとともに、対象業種を6つに絞ることで、中小企業基盤整備機構、日商 LOBO、日銀短観といった他機関の調査結果と比較できるようにリニューアルを行いました。また回答企業様からのコメントとして、中小企業の生の声を掲載するようになり現在に至っています。

25年間の景況調査の推移 グラフの解説

25年間の景況調査の推移を顧みますと、グラフのように日銀短観（黄線）DIと当所売上高DIのトレンドライン（赤点線）は、数値のレベルの差はあるものの、概ね同様の動きをしてきたことがわかります。このように当所の景況調査の結果は、確実に景気の動向をよく表現していることが読み取れます。

この調査が始まった1997年以降も、長くバブル後の低成長が続いてまいりました。しかし、新市制が開始された2005年から2019年に至るまで、太田市の製造品出荷額等は、その間に発生したリーマンショックや東日本大震災による経済への大打撃を乗り越え、地元基幹産業の好調を背景に増加基調で推移してきました。

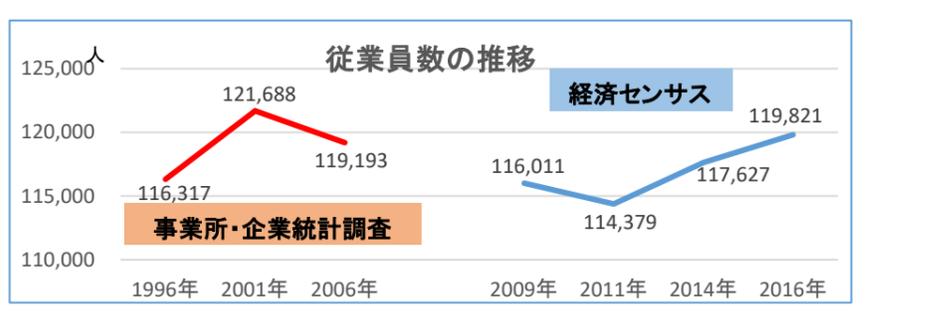
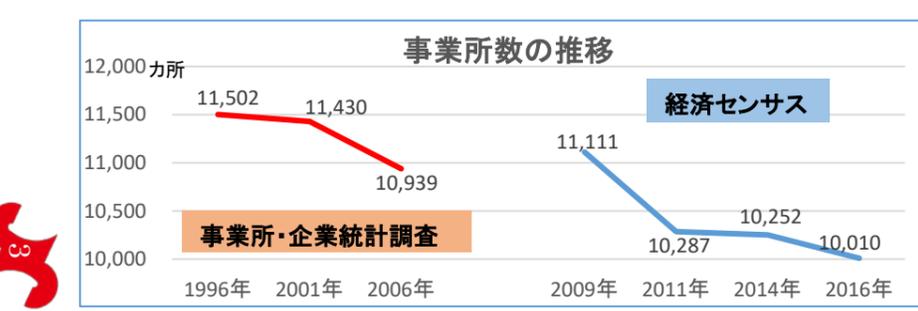
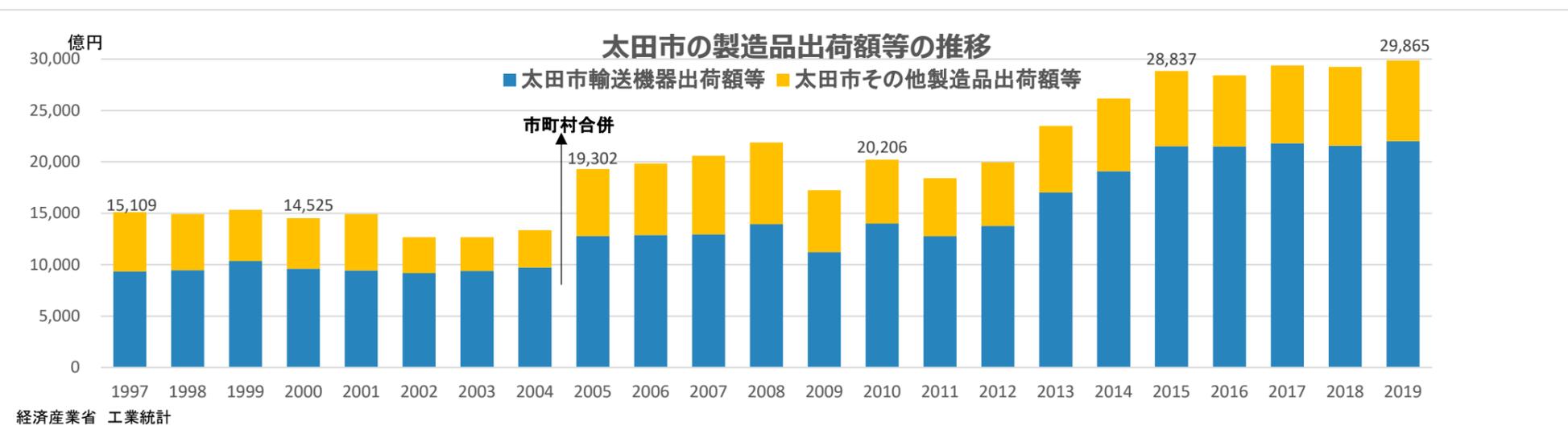
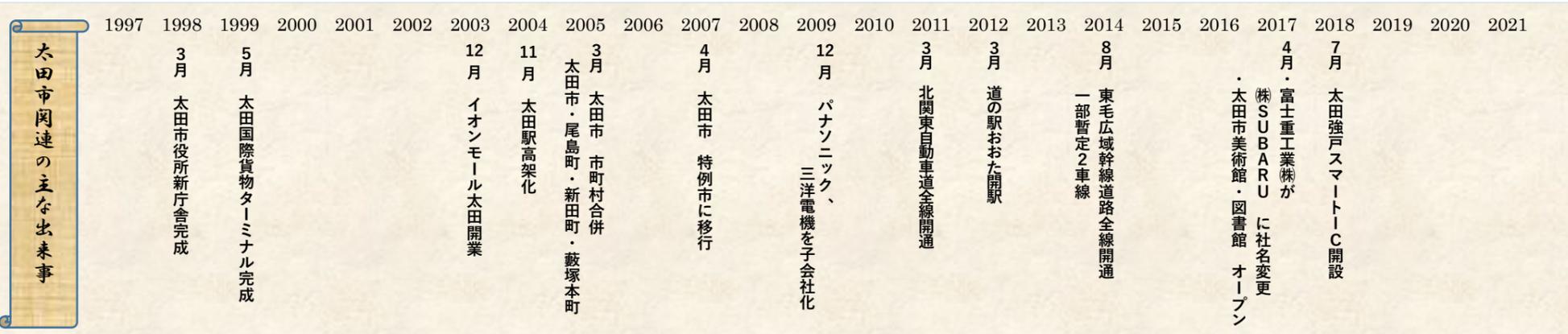
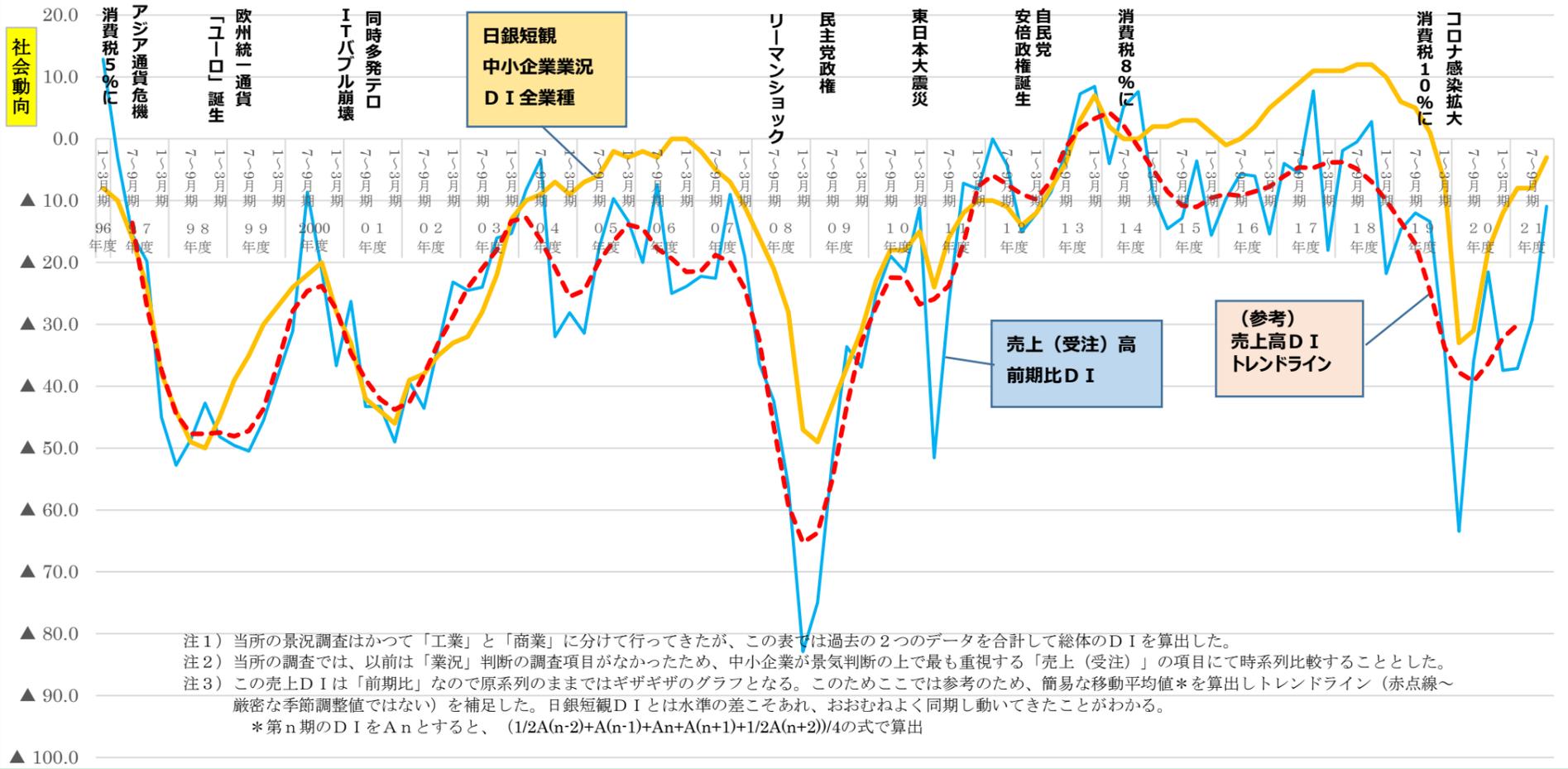
人口は、2010年代より自然減に転じているものの、産業の興隆による社会増が続いており、総人口は、25年の間に1万人以上増加しています。

ご協力いただいた会員の皆様におかれましては、今後も何卒よろしく本調査にご協力賜りますようお願い申し上げます。

写真で見る太田市発展の様子



太田商工会議所景況調査における売上前期比DIと日銀短観業況DI（中小企業）の長期推移



【調査要項】

1. 目的

管内経済動向を把握し、併せて経営者への情報提供とするとともに、今後の経営指導の資料とする。

2. 調査時点及び対象期間

- ① 調査時点 2021年12月
- ② 調査対象期間 今期(2021年10月～12月期)に対する前期(2021年7月～9月期)及び前年同期(2020年10月～12月期)との比較実績、並びに今後3ヶ月間の業況見通しについて調査。

3. 調査対象

当所会員事業所の業種を5つ(製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業)に分類し、製造業に関しては、更に「輸送機器」と「その他製造業」に分けた。

調査対象先の企業数については、太田商工会議所会員事業所の業種割合にて案分し、下記の通り調査を実施した。

4. 回答状況

	依頼数		回答数	回答率
全体	270	→	211	78.1 (%)
輸送機器	40	→	29	72.5 (%)
その他製造	40	→	33	82.5 (%)
建設業	50	→	44	88.0 (%)
卸売業	30	→	24	80.0 (%)
小売業	40	→	33	82.5 (%)
サービス業	70	→	48	68.6 (%)

5. D I 値について

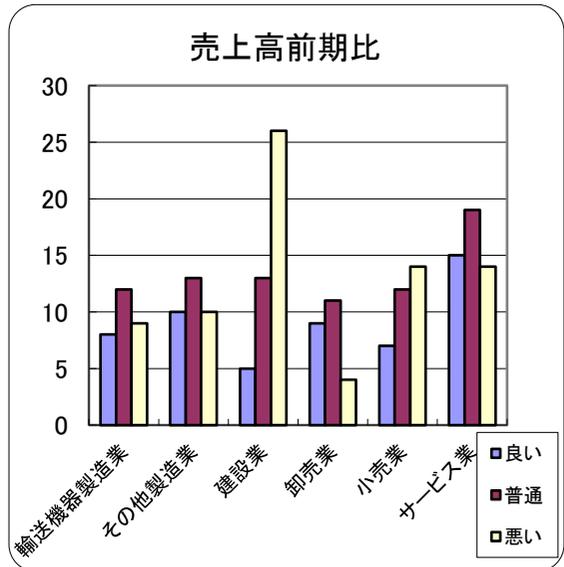
D I とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、良い(増加)と答えた企業の割合から、悪い(減少)と答えた企業の割合を引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

(例:ある設問において、「良い」と答えた企業…15% 「悪い」と答えた企業…25%の場合、D I 値は▲10.0となる。)

(1)設問に対する業種別回答

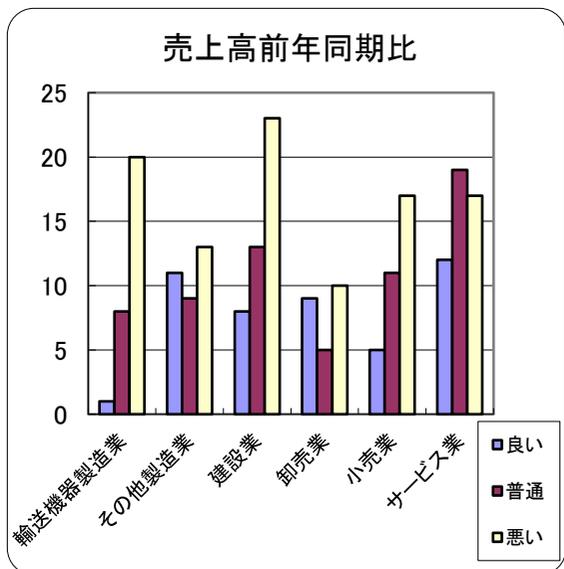
売上高前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	8	12	9	29	▲ 3.4
その他製造業	10	13	10	33	0.0
建設業	5	13	26	44	▲ 47.7
卸売業	9	11	4	24	20.8
小売業	7	12	14	33	▲ 21.2
サービス業	15	19	14	48	2.1
合計	54	80	77	211	▲ 10.9



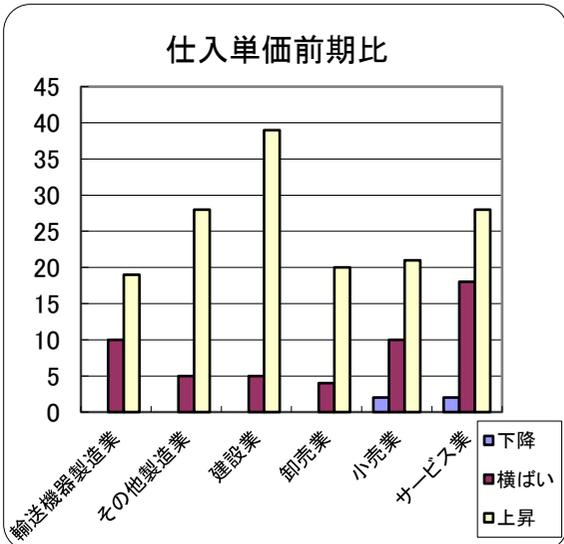
売上高前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	1	8	20	29	▲ 65.5
その他製造業	11	9	13	33	▲ 6.1
建設業	8	13	23	44	▲ 34.1
卸売業	9	5	10	24	▲ 4.2
小売業	5	11	17	33	▲ 36.4
サービス業	12	19	17	48	▲ 10.4
合計	46	65	100	211	▲ 25.6



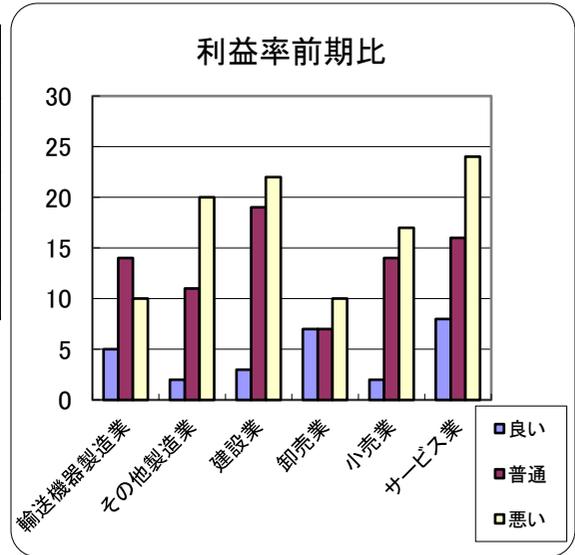
仕入単価前期比

	下降	横ばい	上昇	合計	DI値
輸送機器製造業	0	10	19	29	▲ 65.5
その他製造業	0	5	28	33	▲ 84.9
建設業	0	5	39	44	▲ 88.6
卸売業	0	4	20	24	▲ 83.3
小売業	2	10	21	33	▲ 57.6
サービス業	2	18	28	48	▲ 54.2
合計	4	52	155	211	▲ 71.6



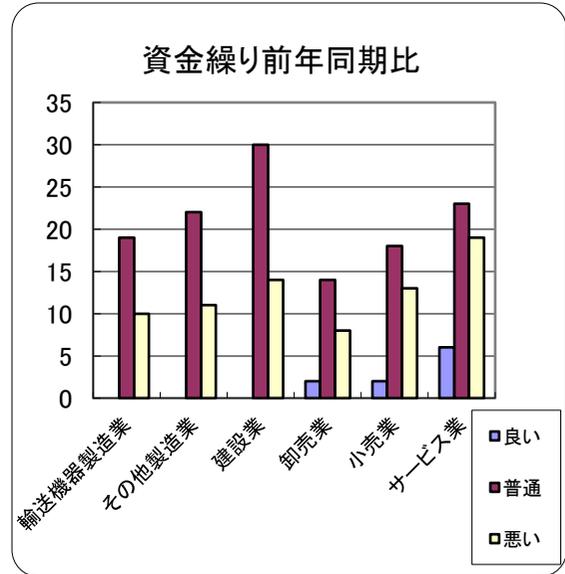
利益率前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	5	14	10	29	▲ 17.2
その他製造業	2	11	20	33	▲ 54.6
建設業	3	19	22	44	▲ 43.2
卸売業	7	7	10	24	▲ 12.5
小売業	2	14	17	33	▲ 45.5
サービス業	8	16	24	48	▲ 33.3
合計	27	81	103	211	▲ 36.0



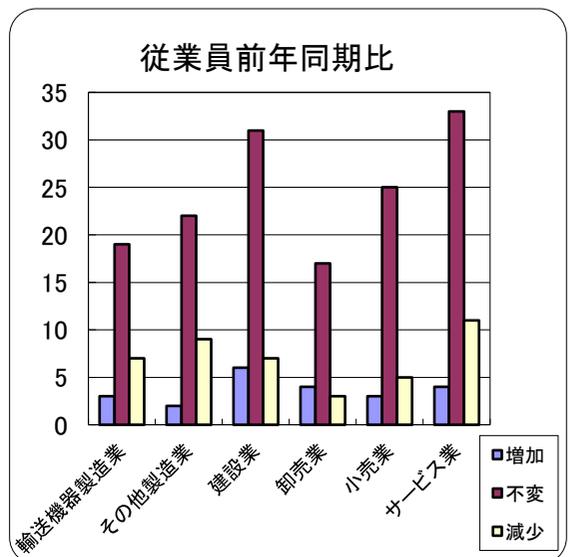
資金繰り前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	0	19	10	29	▲ 34.5
その他製造業	0	22	11	33	▲ 33.3
建設業	0	30	14	44	▲ 31.8
卸売業	2	14	8	24	▲ 25.0
小売業	2	18	13	33	▲ 33.3
サービス業	6	23	19	48	▲ 27.1
合計	10	126	75	211	▲ 30.8



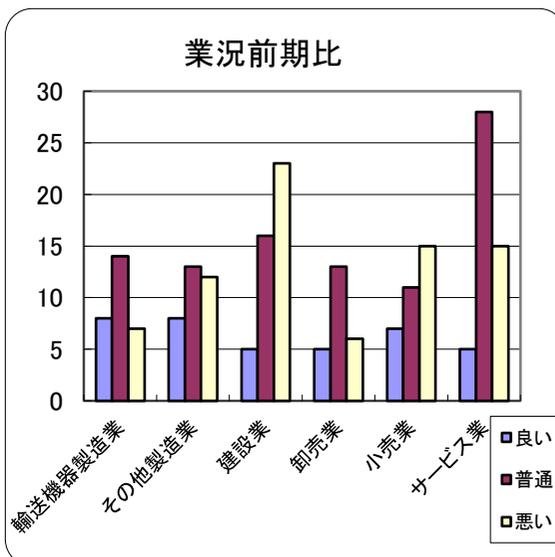
従業員前年同期比

	増加	不変	減少	合計	DI値
輸送機器製造業	3	19	7	29	▲ 13.8
その他製造業	2	22	9	33	▲ 21.2
建設業	6	31	7	44	▲ 2.3
卸売業	4	17	3	24	4.2
小売業	3	25	5	33	▲ 6.1
サービス業	4	33	11	48	▲ 14.6
合計	22	147	42	211	▲ 9.5



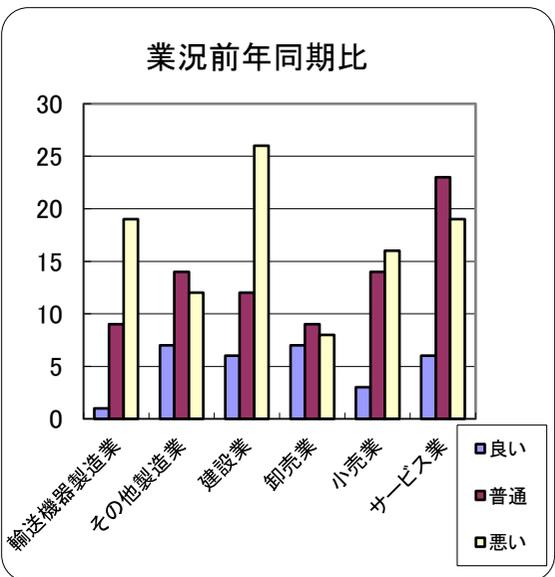
業況前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	8	14	7	29	3.5
その他製造業	8	13	12	33	▲ 12.1
建設業	5	16	23	44	▲ 40.9
卸売業	5	13	6	24	▲ 4.2
小売業	7	11	15	33	▲ 24.2
サービス業	5	28	15	48	▲ 20.8
合計	38	95	78	211	▲ 19.0



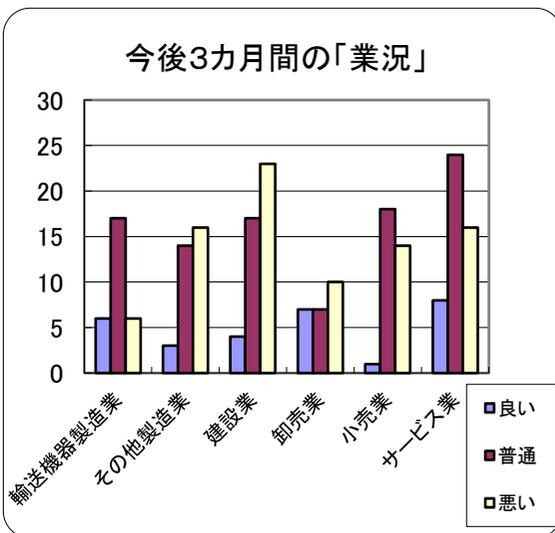
業況前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	1	9	19	29	▲ 62.1
その他製造業	7	14	12	33	▲ 15.2
建設業	6	12	26	44	▲ 45.5
卸売業	7	9	8	24	▲ 4.2
小売業	3	14	16	33	▲ 39.4
サービス業	6	23	19	48	▲ 27.1
合計	30	81	100	211	▲ 33.2



今後3ヶ月間の「業況」見通し

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	6	17	6	29	0.0
その他製造業	3	14	16	33	▲ 39.4
建設業	4	17	23	44	▲ 43.2
卸売業	7	7	10	24	▲ 12.5
小売業	1	18	14	33	▲ 39.4
サービス業	8	24	16	48	▲ 16.7
合計	29	97	85	211	▲ 26.5



(2)業種別DI値について

輸送機器	前期(7~9月期)	今期(10~12月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 21.2	▲ 3.4	17.8
売上高前年同期比	▲ 27.3	▲ 65.5	▲ 38.2
仕入単価前期比	▲ 51.5	▲ 65.5	▲ 14.0
利益率前期比	▲ 30.3	▲ 17.2	13.1
資金繰り前年同期比	▲ 24.2	▲ 34.5	▲ 10.3
従業員前年同期比	▲ 9.1	▲ 13.8	▲ 4.7
業況前期比	▲ 48.5	3.5	52.0
業況前年同期比	▲ 63.6	▲ 62.1	1.5
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 27.3	0.0	27.3

[企業コメントより]

- ・半導体不足の為、受注減少【自動車部品成型】
- ・コロナ禍ですが、この先1カ月先も見通せない時があり、今後も動向等に注視が必要と思う。
仕入高が上昇し、加工費を圧迫している【自動車部品加工】
- ・カーメーカーによる生産調整の影響を受けている【自動車内装部品】
- ・主取引先の業況次第【自動車内装部品製造】

その他製造業	前期(7~9月期)	今期(10~12月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 5.6	0.0	5.6
売上高前年同期比	2.8	▲ 6.1	▲ 8.9
仕入単価前期比	▲ 63.9	▲ 84.9	▲ 21.0
利益率前期比	▲ 30.6	▲ 54.6	▲ 24.0
資金繰り前年同期比	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.6
従業員前年同期比	▲ 5.6	▲ 21.2	▲ 15.6
業況前期比	▲ 19.5	▲ 12.1	7.4
業況前年同期比	▲ 19.5	▲ 15.2	4.3
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 16.7	▲ 39.4	▲ 22.7

[企業コメントより]

- ・長引くコロナで思ったほど追加発注がない【ニット製品製造】
- ・コロナのあおりもあり、思うような売上が上がりませんでした【電気製品開発】
- ・10月の新政権発足により雰囲気が変わり、11月にはさらに売上高がアップした。経済を回すことによりコロナ前に少し近づいてきたように思われる。今後は値上げ商談が多くなると思いますが、しっかりと行っていきたい【食品製造】
- ・これ以上悪くならない(底辺まで到達した)ので、判断は「普通(不変)」(とした)【住宅内装品製造】
- ・10月中旬からいづらか仕事が流れてきている感覚がある。しかし、プラスチックの原材料や部品不足などの影響が来年には出て来るのではないかと懸念している。不足するということは、価格も上昇するのではないかと思われる【プラスチック製品製造】

建設業	前期(7~9月期)	今期(10~12月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 25.6	▲ 47.7	▲ 22.1
売上高前年同期比	▲ 30.8	▲ 34.1	▲ 3.3
仕入単価前期比	▲ 69.2	▲ 88.6	▲ 19.4
利益率前期比	▲ 25.6	▲ 43.2	▲ 17.6
資金繰り前年同期比	▲ 10.3	▲ 31.8	▲ 21.5
従業員前年同期比	2.6	▲ 2.3	▲ 4.9
業況前期比	▲ 38.5	▲ 40.9	▲ 2.4
業況前年同期比	▲ 43.6	▲ 45.5	▲ 1.9
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 28.2	▲ 43.2	▲ 15.0

[企業コメントより]

- ・コロナの影響で交通指導員の確保が厳しい。技術者(職員)も不足。公共工事量が減少【土木工事】
- ・人員が不足していて、営業活動に滞りがあります【総合建設業】
- ・当地の同業他社を見ても受注が落ち込んでいます。弊社は他県の工事も多いのですが、やはり受注が少ないです【空調等工事】
- ・材料コスト上昇、材料の入荷が不安定【住宅建設】
- ・ウッドショック(の影響)【住宅建設】
- ・コロナ関連などによる先延ばしの現場がやっと動き出したか?【建設付帯工事】
- ・コロナの後遺症。コロナに感染したわけではないが、無理をしない、させない、というのが習慣化し、しゃかりきになって仕事を取る、する、というメンタルが失われてしまったのかも【電気工事等】。

卸売業	前期(7~9月期)	今期(10~12月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 45.0	20.8	65.8
売上高前年同期比	▲ 45.0	▲ 4.2	40.8
仕入単価前期比	▲ 80.0	▲ 83.3	▲ 3.3
利益率前期比	▲ 20.0	▲ 12.5	7.5
資金繰り前年同期比	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 5.0
従業員前年同期比	10.0	4.2	▲ 5.8
業況前期比	▲ 55.0	▲ 4.2	50.8
業況前年同期比	▲ 35.0	▲ 4.2	30.8
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 15.0	▲ 12.5	2.5

[企業コメントより]

- ・材料不足と価格上昇の影響は大きい。従来は即納で入手できていた消耗品までも原材料不足で、最短で3カ月とか6カ月と調達できない。半導体不足による機器の欠品も続き、せっかく頂いた引合いにも対応できず困惑している。物さえあれば商売につながるのにお断りせざるを得ない状況。いつ解消するのか不安です。また、物不足の中で力のある大手の買い込みによる影響もあり、資金力、調達力、営業力の差を痛感している。が、何とか乗り越えていきたい【電機関係設備資材卸】
- ・介護保険下のレンタル(貸与)事業が大幅な伸長をしております。ただ、ベッド、車椅子手すり等仕入金額が大きくなってきております。それと銀行がコロナの問題で不良債権化するのを恐れ、資金調達が難しくなってきております【医療介護関連機材卸】
- ・海外生産品の入荷不足で販売に支障が出ている【事務機等卸】
- ・今現在の業況の見通しが見えてこない。中小企業が不況を乗り越えられる対策を考えて欲しい。【住宅資材卸】

小売業	前期(7~9月期)	今期(10~12月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 51.5	▲ 21.2	30.3
売上高前年同期比	▲ 48.5	▲ 36.4	12.1
仕入単価前期比	▲ 42.4	▲ 57.6	▲ 15.2
利益率前期比	▲ 42.4	▲ 45.5	▲ 3.1
資金繰り前年同期比	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0
従業員前年同期比	▲ 3.0	▲ 6.1	▲ 3.1
業況前期比	▲ 63.6	▲ 24.2	39.4
業況前年同期比	▲ 48.5	▲ 39.4	9.1
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 48.5	▲ 39.4	9.1

[企業コメントより]

- ・コロナにより客の出足悪い【食料品等販売】
- ・原材料がじわじわ高くなってきています【食品製造販売】
- ・コロナ感染者数の減少により、飲食店様向けの売上がやや戻ってきている【飲料販売】
- ・コロナ2年目で低い方向に定着している。余分なものは購買してくれない傾向が大である【飲料販売】
- ・世の中の状況的には苦しいが、お客様のニーズに応えるためには日々努力するしかない【嗜好品販売】
- ・新年度売上回復を目指してー【趣味用品店】

サービス業	前期(7~9月期)	今期(10~12月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 33.3	2.1	35.4
売上高前年同期比	▲ 40.7	▲ 10.4	30.3
仕入単価前期比	▲ 44.5	▲ 54.2	▲ 9.7
利益率前期比	▲ 42.6	▲ 33.3	9.3
資金繰り前年同期比	▲ 33.3	▲ 27.1	6.2
従業員前年同期比	▲ 11.1	▲ 14.6	▲ 3.5
業況前期比	▲ 46.3	▲ 20.8	25.5
業況前年同期比	▲ 50.0	▲ 27.1	22.9
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 38.9	▲ 16.7	22.2

[企業コメントより]

- ・単発受注の減少【情報関連】
- ・燃料高騰(が影響している)【運送業】
- ・自動車部品不足により生産が制限を受け、業況悪い。いつから回復するのか、メーカーからの情報が全く無く、先が見えない【陸送業】
- ・やっと少しずつ動き出しましたかね。くさらず頑張ります【運送業】
- ・自動車メーカーの仕事が減りダメ【運送業】
- ・この先、不透明で分かりませんが、3~4件テレビの取材が入りましたので少しは期待が持てるかも知れません【食品製造販売】
- ・緊急事態宣言が解除されましたが、夜のお客様の来店数はあまり増えていません。昼、少し動きが出てきていますが、まだまだコロナ以前のように戻るのには先のようなようです。12月を迎えますが宴会等はもう出来ないと思います【レストラン】
- ・緊急事態宣言明けから2ヶ月過ぎます。お客様の戻りは定着せず不安定だ。日によればとても忙しい、という日もあるがコロナ前のような売上はなくなった。全体でみると、コロナ前からすると15%減といったところか。今後もそのようにコロナ前のような売上の回復はない。と考えるの経営判断をすることになると思います【レストラン】
- ・もうしばらくは、この業況が続くのでは…【理美容サービス】

- 今年(21年)6月頃から鉄屑の発生が少ないのと、SDGsでの需要が高まった為に鉄屑相場は急上昇して今も高値で推移している。我々は重量での商売をしているが、数量が減った分、単価上昇でかなり商売的には戻ってきてはいる。しかしいつ単価が下落してもおかしくない状況でもあるため、単価の推移次第でまた売上利益の出ない状況になってしまう恐怖に怯えている【資源再生】
- コロナ禍が現在収まっている状況で、小人数の宴会やフリーのお客様が戻ってきている状況である。オミクロン株の動向が気になるところで、第6波が来るかどうかで大きな違いがある【飲食店】
- 食材の高騰が顕著です。なかなか売上が安定しないなか、国産、輸入問わず多くの食材が高騰しており、業者が来るたびに値上げの見積書を持って来ます。個人店の努力も限界かと思います。食材の供給を国全体の問題として解決して欲しいです【飲食店】
- 新型コロナ 予断がまだ許されない【福祉サービス】
- 業況が普通というのは、あくまでも前年比としての話で水準は未だ低レベルである。正直な所、協力金が終わっても売上は変わらずなので今が(これから)一番厳しい状況になると思う【飲食店】
- Go to eat キャンペーン(30%up)後、キャンペーンを用いたお客様がかなり増えたため、売上upとなった。今後もコロナ状況に左右されるため、目先ではなくコロナ後を見すえた計画を今、立てるべきと考えている【飲食サービス】

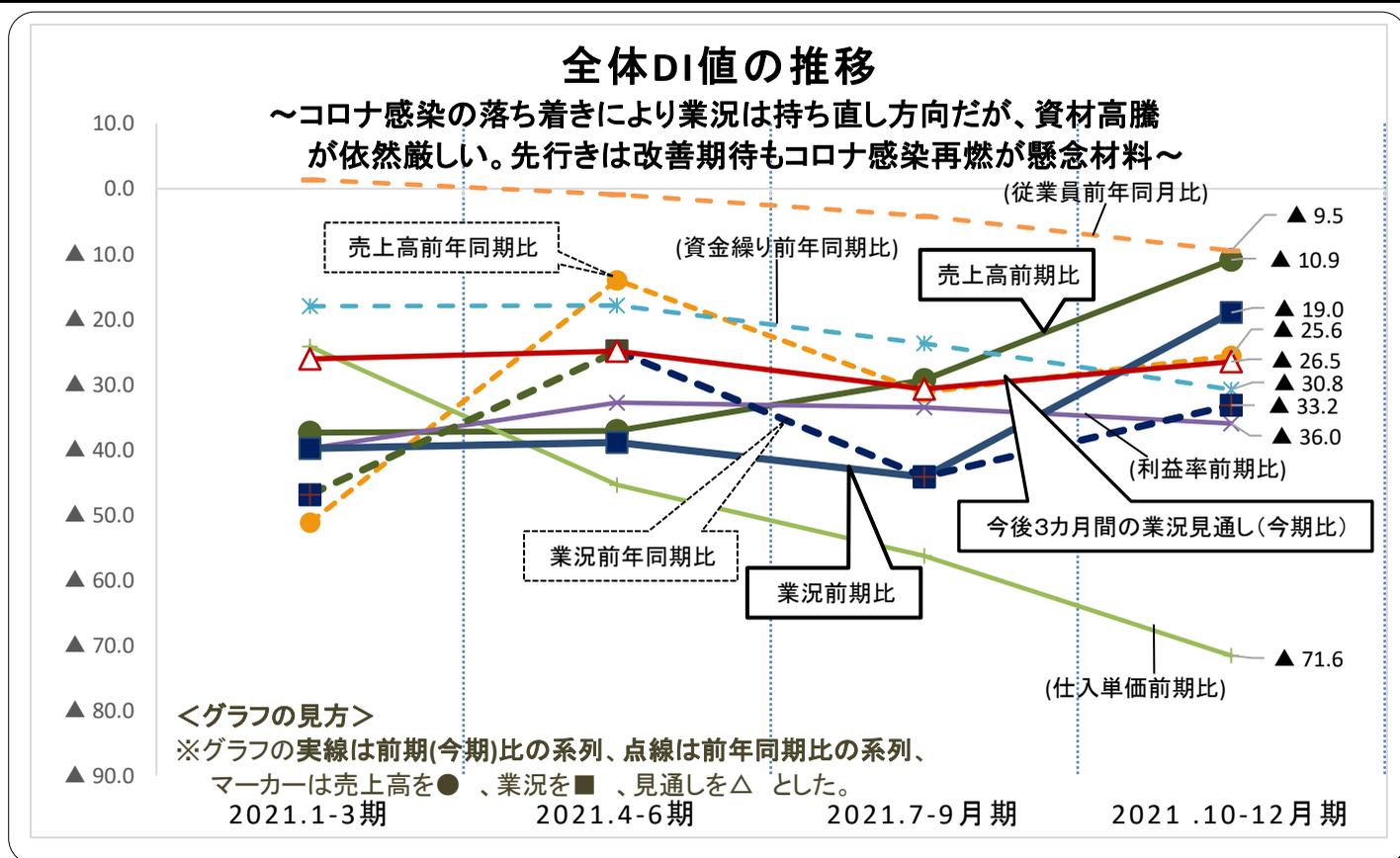
(3) 全体DI値について

全 体 D I 値	前期(7~9月期)	今期(10~12月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 29.3	▲ 10.9	18.4
売上高前年同期比	▲ 31.2	▲ 25.6	5.6
仕入単価前期比	▲ 56.3	▲ 71.6	▲ 15.3
利益率前期比	▲ 33.5	▲ 36.0	▲ 2.5
資金繰り前年同期比	▲ 23.7	▲ 30.8	▲ 7.1
従業員前年同期比	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 5.3
業況前期比	▲ 44.2	▲ 19.0	25.2
業況前年同期比	▲ 44.2	▲ 33.2	11.0
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 30.7	▲ 26.5	4.2

(4) 動向について

- ・業況DIを前期比で見ると、コロナ感染の落ち着きを背景に、建設以外の全業種で上昇した。この傾向は前年同期比で見ても同様ではあるが、生産調整のあった輸送機器ではほぼ横ばいであった。
- ・今期も全業種において仕入単価DIが引き続き下降(価格上昇)し、資材の不足と高騰が依然厳しい。とりわけ、その他製造業と建設業では前期比20ポイント前後低下、利益率DIも大幅に下がっている。
- ・今後3カ月の業況見通しは小幅な改善を予想。その他製造、建設で慎重な見方が続くものの、他の全業種で今期比上向くと見込んでいる。但し、コロナ感染の再拡大があれば大きな懸念材料となる。

全体DI値の推移	2021.1-3期	2021.4-6期	2021.7-9月期	2021.10-12月期
売上高前期比	▲ 37.4	▲ 37.1	▲ 29.3	▲ 10.9
売上高前年同期比	▲ 51.2	▲ 14.0	▲ 31.2	▲ 25.6
仕入単価前期比	▲ 24.2	▲ 45.4	▲ 56.3	▲ 71.6
利益率前期比	▲ 39.8	▲ 32.8	▲ 33.5	▲ 36.0
資金繰り前年同期比	▲ 18.0	▲ 17.9	▲ 23.7	▲ 30.8
従業員前年同期比	1.4	▲ 0.9	▲ 4.2	▲ 9.5
業況前期比	▲ 39.8	▲ 38.9	▲ 44.2	▲ 19.0
業況前年同期比	▲ 46.9	▲ 24.9	▲ 44.2	▲ 33.2
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 26.1	▲ 24.9	▲ 30.7	▲ 26.5



(5) 比較資料編

当所調査のDI値をもとに、同様の景況調査を行っている機関とのデータ比較を行った。

(なお、日本商工会議所のLOBO調査については毎月調査となっているため、10～12月の平均値でDI値を算出)

①売上高前期比DI (「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 1.6	▲ 16.0	-	-
建設業	▲ 47.7	▲ 14.6	-	-
卸売業	20.8	▲ 15.0	-	-
小売業	▲ 21.2	▲ 25.1	-	-
サービス業	2.1	▲ 16.9	-	-
全体	▲ 10.9	▲ 18.5	-	-

②売上高前年同期比DI (「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 33.9	-	▲ 6.9	5.9
建設業	▲ 34.1	-	▲ 15.7	
卸売業	▲ 4.2	-	▲ 10.3	
小売業	▲ 36.4	-	▲ 30.6	2.6
サービス業	▲ 10.4	-	▲ 18.2	
全体	▲ 25.6	-	▲ 16.6	3.3

(↑非製造業という括り)

③仕入単価前期比DI (「下降」と答えた割合－「増加」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 75.8	-	▲ 63.4	-
建設業	▲ 88.6	-	▲ 73.1	-
卸売業	▲ 83.3	-	▲ 51.0	-
小売業	▲ 57.6	-	▲ 43.3	-
サービス業	▲ 54.2	-	▲ 44.9	-
全体	▲ 71.6	-	▲ 54.5	-

(仕入単価・前年同期比)

④利益率前期比DI (「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 37.1	▲ 20.8	▲ 21.1	28.7
建設業	▲ 43.2	▲ 25.1	▲ 22.1	
卸売業	▲ 12.5	▲ 22.7	▲ 18.6	
小売業	▲ 45.5	▲ 39.8	▲ 35.2	10.6
サービス業	▲ 33.3	▲ 31.5	▲ 30.4	
全体	▲ 36.0	▲ 29.6	▲ 26.3	15.2

(採算・前年同期比) (採算・前年同期比) (経常利益・前年同期比)

⑤資金繰り前年同期比DI (「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(全規模)
製造業	▲ 33.9	▲ 16.9	▲ 13.3	13.0
建設業	▲ 31.8	▲ 10.9	▲ 5.7	
卸売業	▲ 25.0	▲ 14.2	▲ 10.5	
小売業	▲ 33.3	▲ 25.8	▲ 25.9	11.0
サービス業	▲ 27.1	▲ 20.7	▲ 22.3	
全体	▲ 30.8	▲ 19.4	▲ 16.7	12.0

(前期比)

(直近比)

⑥従業員前年同期比DI（「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 17.7	▲ 7.3	—	—
建設業	▲ 2.3	▲ 2.8	—	—
卸売業	4.2	▲ 3.6	—	—
小売業	▲ 6.1	▲ 3.4	—	—
サービス業	▲ 14.6	▲ 6.6	—	—
全体	▲ 9.5	▲ 5.3	—	—

⑦業況前期比DI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 4.8	▲ 19.7	—	▲ 1.0
建設業	▲ 40.9	▲ 15.4	—	12.0
卸売業	▲ 4.2	▲ 21.9	—	▲ 7.0
小売業	▲ 24.2	▲ 32.9	—	▲ 23.0
サービス業	▲ 20.8	▲ 23.1	—	▲ 36.0
全体	▲ 19.0	▲ 23.3	—	▲ 3.0

（サービス業は宿泊・飲食の数字）

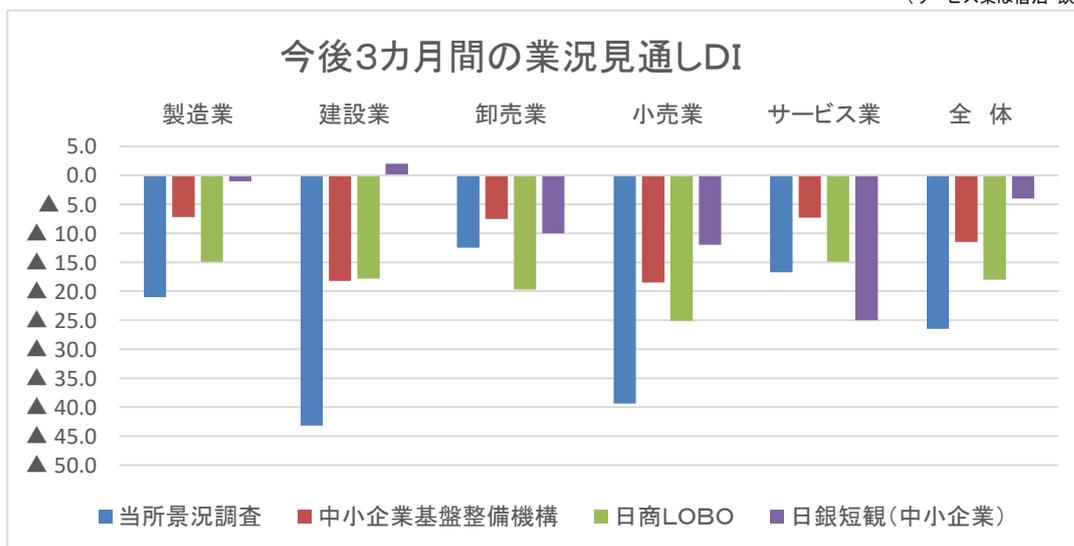
⑧業況前年同期比DI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 37.1	—	▲ 12.6	—
建設業	▲ 45.5	—	▲ 18.9	—
卸売業	▲ 4.2	—	▲ 21.5	—
小売業	▲ 39.4	—	▲ 35.8	—
サービス業	▲ 27.1	—	▲ 22.1	—
全体	▲ 33.2	—	▲ 21.9	—

⑨今後3ヶ月間の業況見通しDI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 21.0	▲ 7.2	▲ 14.9	▲ 1.0
建設業	▲ 43.2	▲ 18.2	▲ 17.8	2.0
卸売業	▲ 12.5	▲ 7.5	▲ 19.7	▲ 10.0
小売業	▲ 39.4	▲ 18.5	▲ 25.1	▲ 12.0
サービス業	▲ 16.7	▲ 7.3	▲ 14.9	▲ 25.0
全体	▲ 26.5	▲ 11.5	▲ 18.0	▲ 4.0

（サービス業は宿泊・飲食の数字）



太田商工会議所管内景況調査報告書

-調査・分析・発行-



太田商工会議所

〒373-8521 群馬県太田市浜町3-6

TEL 0276(45)2121

FAX 0276(45)1088

URL <http://www.otacci.or.jp>

E-Mail info@staff.otacci.or.jp

2022年(令和4年)1月11日発行